

☆砺波農林振興センター
管内の情報を
ホームページで発信中！！
<https://www.pref.toyama.jp/1633/r5tonaminourin.html>



ブログやっています。
“とやま水土里探訪ブログ”
で検索を！
<http://facebook.com/toyama.nousonsebi>



となみ野水土里通信

第47号

令和5年11月28日

富山県砺波農林振興センター
農業農村整備広報・広聴連絡会議
〒939-1386 砺波市幸町1番7号
電話(0763)32-8124【指導課】

令和5年度とやま水土里
フォーラムで天神地区委
員会が知事賞を受賞

標記フォーラムが10月20日（金）に南砺市井波総合文化センターにて約600名が参加する中、開催され、とやま水土里コンクールで知事賞を受賞した天神地区委員会（南砺市）が表彰され（写真①）、関係機関を巻き込んで収益増につなげる取り組みについて事例発表されました（写真②）。



①横田副知事と受賞者

第17回ワクワクとやま
むらづくり推進大会で
梅檀野自治振興会が受賞

標記大会が11月13日（月）に富山県民会館で開催されました。
本大会は、農業・農村の振興と多面的機能の発揮を図る取組について、その必要性や成果を県民に広く発信するとともに、活動指導者間の情報交換を行うものです。

大会では、環境保全優良活動表彰において知事賞を受賞した活動組織6団体が表彰され、当センター管内では中山間地域で活性化に取組む梅檀野自治振興会（砺波市）が受賞されました（写真①）。同振興会は人口減少と高齢化の進行で、地域コミュニ



①受賞された梅檀野自治振興会

ティの維持に支障を来すことを懸念され、生活に必要なサービスを確保するため、閉園となった幼稚園舎を改装し（写真②）、11集落を結ぶネットワークの拠点として活用することで、地域コミュニティを維持し、持続可能な地域づくりに取り組まれました。



②改装された幼稚園舎（上）と直売コーナーを設けた室内（左）



その後、基調講演として株式会社日本総合研究所三輪泰史氏より、「スマート農業で実現する次世代農業」「持続可能で儲かる農業」がポイントに」をテーマにこれからの農業の在り方について講演されました。
なお今回のフォーラムでは、初めての試みとして、若い世代にこれらの農業を知ってもらう機会を増やそうと、農業高校生にも参加を呼びかけましたところ、南砺福野高校と



②天神地区の事例発表

小矢部園芸高校から生徒80名の参加がありました。基調講演を熱心に聴いた、生徒からは「将来のスマート農業に向けて自分たちに何ができるか？何を学ぶべきか？」との質問がありました（写真③）。
フォーラムに参加された一般の方へのアンケートでは「高校生が参加していることで心強く感じられる」との意見がありました。



③参加した高校生からの質問

小学校キャリア教育
「建設業ふれあいイベント」

福光南部小学校5、6年生を対象にした「建設業ふれあいイベント（協力・上坂建設㈱）」は建設業とたのしくふれあおうと題した小学生向けキャリア教育が9月13日（水）に、小学校と隣接するほ場整備の工事現場で開催されました。

建設業について学び、建設工事現場の見学や重機などの建設機械にふれることにより、建設業への興味をもってもらうとともに、将来の社会と自己とのかわり方を考えるきっかけとなることを目的としています。
はじめに教室で映像を使った建設の仕事についての動画を見た後、ほ場整備の現場に移動して建設機械の体験乗車（写真）を行いました。



建設機械の体験乗車

現場への移動の途中、児童から「冬の間は何をしているのですか」との質問に、作業員から「道路の除雪をしてみなさんのくらしを支えています」との回答に児童から「ステキですね」とのやり取りがありました。
作業員も自分の仕事に自信が持て、また、児童の心にも何か響くものがあつたのではないのでしょうか。

パートナーシップ
推進デスクより

中山間地域などの農村地域において、「農家や農村集落」と「企業・市民団体」がパートナーシップを組み、お互いが持っている資源や得意分野を活かすことで、都市農村交流の促進と地域活性化を図るWIN・WINの取り組みを支援します（図・写真）。



茅場の維持管理に協働して取り組むNEXCO 中日本株

事業の実施にあたっては、企画振興課内にパートナーシップ推進デスク（0763-32-8130）を設置していますのでご相談ください。また、事業の詳細は当センターホームページを参照ください。

STOP！ 用水路事故 全ての関係者で危険意識共有を

県内の農業用水路での転落死亡事故は、年間20件程度発生しており、県は転落防止の「声かけ」運動を進めているところです。

そのような中、5月9日（火）に農業用水路に児童が転落する事故が発生しました。その場所（写真①）は過去にも転落事故があり危険箇所の認識はありましたが、学校や地元関係者だけで話をしていたため、注意を呼び掛けるに留まり、具体的な事故防止策は実施されていませんでした。



①対策前の事故現場（突き当りに用水）



②対策後 撤去された横断歩道



③対策後 移動された横断歩道

その反省から、今回事故の2日後の5月11日（木）に地元関係者や道路管理者、土地改良区等の関係者が一堂に集まり、問題を共有し、対策について話し合いが行われました。

その結果、用水路に蓋を掛けたり、転落防止柵を設置したりするものではなく、横断歩道の位置を変えろという対策（写真②・写真③）を僅か一ヶ月で実施されました。

このことは「地元住民だけでなく幅広い関係者が集まり、点検するとともに問題を共有し、対策について話し合う」ことがいかに大切かと認識させられる優良事例です。

富山県多面的機能支払 推進研修会

標記研修会が10月18日（水）に富山産業展示館（テクノホール）にて関係者約900名参加のもと開催されました。

講演は①農林水産省農村振興局飯野師氏より「多面的機能支払交付金の概要（施策の評価に向けて）」②福井県多面推進協議会 柘原一男氏より「活動組織の広域化について」の説明がありました。

休憩をはさみ、パネルディスカッション「県内の多面的機能支払の取組状況について」と題し、富山大学名誉教授 酒井富夫氏をコーディネータとし、4センター指導課長並びに2講演説明者にて論議が交わされました。

同時開催として別ブースにて、農業用水安全対策資材や多面的機能に資する機械展示等も行われていました。

散居景観を保全する 枝打ち研修会

富山県、砺波市、南砺市、となみ野田園空間博物館推進協議会主催の「枝打ち研修会」が10月5日（木）に、となみ散居村ミュージアムで造園業者ら参加のもと、開催されました。

この研修会は、砺波平野の景観に配慮した屋敷林の枝打ちについて、造園業者の知識と技術を深めることを目的に、平成29年度から毎年開催されており、今回で8回目です（平成29年度は2回開催）。

研修では、砺波市屋敷林等保全委員会の委員長である宗景昭氏（宗景造園代表）と職業訓練指導員の森井敬久氏（植久代表）を講師に招き、屋敷林の果たす役割についての講演や、枝打ち技術の実演を行いました（写真）。予定では昨年と同様に屋外で高所作業車を用いて参加者へ実技指導を行うこととしていましたが、当日はあいにくの悪天候となったため、屋内に杉の木などを持ち込んで枝打ちの技術を説明しました。



枝打ちの実演の様子

庄川左岸地区 洪水調整池で効果を発揮

庄川左岸三期地区では、溢水被害の軽減を図るため、令和2年度より海尻川調整池（東池・西池）を造成しています。東池は令和4年度に完成し、今年7月の線状降水帯発生による洪水時にはその効果を発揮しました（写真）。現在は西池の造成工事を行っており、今年度完成に向けて順調に工事が進んでいます。



柳瀬地区 小さな区画を拡大中

柳瀬地区では、営農活動の安定および、営農組織による効率的な営農を推し進めるため、ほ場の大区画化や用排水路の更新等が行われます。

令和4年度に採択され、今年度より本格的に着手され、完成は令和9年度の予定で、現在の進捗率は28%となっています。



吉松地区 整備により必要水量の確保

吉松地区では、農業用排水施設の改修により、必要水量の確保や排水機能の向上を図るとともに、農業経営体による農地の利用集積の促進、農業経営の持続的な発展を図ることとしています。令和4年度に採択され、今年度より本格的に工事に着手され、完成は令和9年度の予定で、現在の進捗率は14%となっています。



編集後記

とやま水土里フォーラムに農業科の高校生が参加してくれました。一般の参加者からは、「心強く感じられた」などの感想がありました。

高齢化・担い手不足と叫ばれる農山村地域において、若者の存在はそこで暮らす人に力を与えてくれるのだと思います。そうであれば、若者に魅力を感じさせるものは何なんだろうか？

ある地域の方と話をしていた、耳に残った言葉がありました。それは、「自分たちが、楽しそうに笑って仕事をしているからこそ、その仕事に魅力を感じ、やってみたいという気持ちになる」というものでした。それを実践している地域が、表彰されているのでしょうか。嫌な顔をして、愚痴を溢しながらではなく、楽しく、笑いながら、仕事ができれば、自然と後ろについていてくれるのだと思います。

（47号編集担当者 記）

